公共施設の最適化に向けて

公共施設再編計画の中間案を公表しました

学校や図書館、体育館など約450におよぶ市の公共施設は、市民の皆さんの生きがい活動や学習、文化・芸術活動、憩い・交流活動など、生活を豊かにする場としてさまざまな役割を果たしている貴重な財産です。

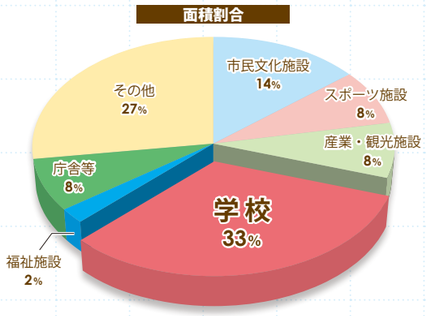
しかし、今後一斉に大規模改修や更新の時期を迎えること、人口減少・少子高齢化の進展、公共施設の整備に充てられる財源を縮小せざるを得ない状況から、将来にわたって現在の施設をそのまま維持していくことは極めて困難になっています。

市では、公共施設を次の世代に健全な状態で継承し、市民サービスの維持向上を図るため「湯沢市公共施設再編計画」を令和元年度末までに策定することとしており、このたびその中間案をまとめました。

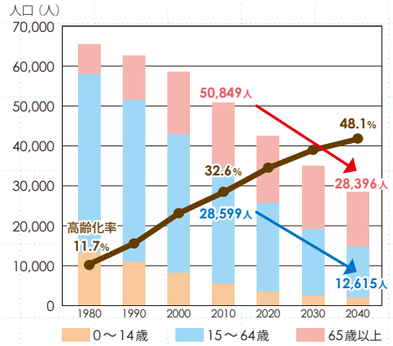
～ふりかえり～　なぜ公共施設の再編が必要なの？

公共施設を取り巻く状況

約450施設
総面積は約30万㎡
（小学校の校舎約80個分）



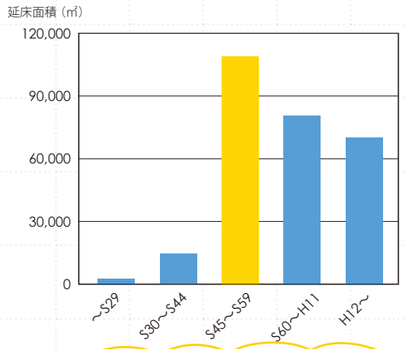
人口は30年間で44%減少
生産年齢人口（15～64歳）は30年間で56%減少



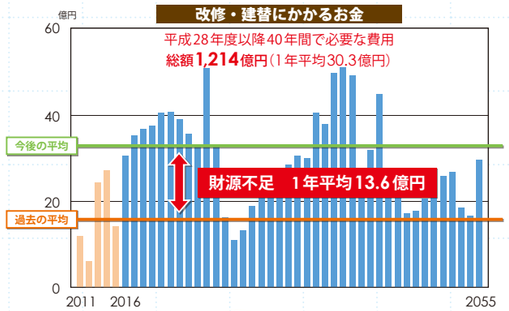
市民１人あたりの面積は
全国平均の２倍なんだって！

人口減少 ⇒ 施設の利用者が減る
少子高齢化 ⇒ 施設のニーズが変わる
ってことなのね…

多くの施設が老朽化
築30年以上の施設が全体の半分



今ある施設を全て残す場合、
現在かけているお金の
２倍近くのお金が必要



一定期間（昭和45～59年）に集中的に整備しているから、改修や建て替えが必要な時期が重なるんだね…

税収が減っても、福祉の経費は増えていくのに、「公共施設にかけているお金」は、これからも同じくらい使えるだろうか…？

再編計画って何？　計画の位置付け

策定済
公共施設等総合管理計画
2016 ～ 2040（25年）

公共施設を取り巻く現状を踏まえて、今後の公共施設のあり方について基本的な考え方を示しました。

策定中
公共施設再編計画（前期）
2020 ～ 2030（11年）

公共施設再編計画（後期）
2031 ～ 2040（10年）

個別施設にかかる今後の方向性や取組内容をまとめるもので、今はこの計画の策定に取り組んでいます。

前期が終了するときに、必要な見直しをして、新たに策定します。

前期計画を策定した後は、毎年度計画の進み具合を点検・検証します。

社会情勢や国の施策等の変化の状況に応じて、計画期間内であっても適宜見直しをします。

今後の方向性を検討する視点

各施設の現状を踏まえ、次の視点から総合的な検討を行い今後の方向性を示しています。

①まちづくりにおける役割 ▸▸▸▸▸ まちづくりの施策を実現する手段として、公共施設の役割を検証します。

②サービスを低下させない ▸▸▸▸▸ 継続が困難な施設でも、サービスが必要な場合は、代替策を検討します。

③点でなく面でみる ▸▸▸▸▸▸▸▸▸▸ 施設周辺を面的に見渡し、類似施設がある場合は複合化を図ります。

④時間と空間を使いきる ▸▸▸▸▸▸ 空いている部屋や時間帯を工夫して施設を使い切り、必要性の高い施設は計画的に改修を行って長く使用します。

⑤費用対効果 ▸▸▸▸▸▸▸▸▸▸▸▸▸▸ 施設状況に応じて、改修するか、コンパクトに建替するかなど、費用対効果を検証します。

⑥多様な管理運営方法 ▸▸▸▸▸▸▸▸ 管理運営について、市の直営管理、民間委託、地域の自主管理など、最適な手法を検討します。

市民の皆さんと協働で考える

多様な市民参加機会（平成30年度の取り組み）

計画の策定には、さまざまな立場や世代、地域のかたがたからご意見を伺うことが重要と考え、多様な機会を設けました。参加いただいた皆さんからは、個別施設のあり方や管理運営手法、受益者負担の適正化、民間活力の活用などに関するご意見をいただき、適宜、計画に反映しています。また、いただいた主なご意見は、計画書資料編に掲載しています。

時　期	項　目	対　象
5月、11月（各6回）	市民意見交換会	地域住民
7月、8月、9月（3回）	若者や女性が輝くまちづくり推進協議会	若者・女性・関係団体等（10～40代の男女）
8月	市民アンケート（旧市町村別）	15歳以上の市民（無作為抽出）
9月（2日間）	市民討議会	15歳以上の市民（無作為抽出）
12月、1月（4回）	公共施設マネジメント市民会議	関係団体、公募市民
随時（3回）	出前講座	申込みのあった団体